

『〈民主〉と〈愛国〉』

小熊英二／新曜社／6300円＋税

本書はタイトルにあるとおり「戦後」におけるナショナリズムや「公」にかんする言説を検証し、その変遷過程を明らかにすること^①で、「敗戦後の「日本」および「日本人」が、どのような価値体系やナショナル・アイデンティティを築^②こうとしてきたのかを考えるものである。明らかに今、終戦以来結局手つかずのまま残されてきた問題に対してなんらかの具体的な回答を用意しなければならない地帯に足を踏み入れている「日本人」にとって、「民族」、「民主主義」、「平和」などなど声高に使用されがちな言葉のひとつひとつからの距離を保つことが重要な意味を持つ。「日本人の自画像」を検証し、「日本人の境界」に考えを巡らせてきた作者による本書は、その時に、決定的な視座を提供する。いずれにせよ所与の「日本人」など存在しないのであるから。

〈民主〉と〈愛国〉

戦後日本のナショナリズムとアイデンティティ
 小熊英二
